

2008 年度事業報告書

特定非営利活動法人 道普請人

1. 事業名、2. 事業実施国・地域、3. 事業期間、4. 従事者数、5. 事業実施の経緯、6. 事業目的、7. 裨益者、8. 事業費について下記にまとめる。事業内容、成果については別紙参照。

1) 特定非営利活動に係る事業

事業名)

公共心が少ないと言われる国、パプアニューギニアでの道路整備

事業実施国、地域)

パプアニューギニア独立国、イースタンハイランド州、ウンガイベナ県、オブラオネナラ県、ルファ県

事業期間、従事者数)

2008 年 4 月より 2009 年 3 月、4 名（木村、福林、三宅、山本）

事業実施の経緯)

2005 年 9 月現地在住日本人主婦の、住民ができる道直し方法はないかという質問に木村理事長が応える形で現地活動を開始した。その後、現地国会議員との協議を進め、その出身選挙区であるウンガイベナ県ベナ地区に事務所を構え未舗装道路整備を実施してきている。

事業目的)

公共心が少ないと言われる国、パプアニューギニアにおいて、「土のう」による農道整備、簡便インフラ整備手法を住民へ技術移転、定着させ自分達の道は自分達で直すという意識を広げる。

裨益者)

ウンガイベナ県、オブラオネナラ県、ルファ県の住民約 15,000 人

事業費)

3,181,066 円

事業名)

ケニアにおける官と民からの農村インフラ整備に向けた技術移転

事業実施国、地域)

ケニア共和国、トランゾイア県、ブンゴマ県、キシイ県、ニャンダルア県、ウアシンギシュ県

事業期間、実施者)

2008 年 4 月より 2009 年 3 月、3 名（木村、喜田、福林、本庄）

事業実施の経緯)

1983 年よりケニアにて木村理事長が JICA 短期専門家として活動時より、農業分野の専門家であった喜田氏とともに貧困削減に寄与する新たな構想を練ってきた。

農業国である開発途上国の貧困削減には農業技術、マーケティングとともに農村インフラ整備実施能力の向上が必要である。これを実現するアプローチが可能なプロジェクトをデザインしてきた。その結果、2006 年 11 月より技術協力プロジェクトが開始された。農村インフラ整備活動に関しては木村理事長、福林が 2007 年 1 月より参画している。¹

ケニア国で NGO、COmmunity Road Empowerment (CORE) を設立した。ケニアで登録された国際 NGO としての立場で技術移転活動を開始した。喜田、本庄が担当。

事業目的)

ケニア農業省を通じ農民グループへ「土のう」による農村インフラ（農道、小規模ダム）整備手法の技術移転、定着化を図る。農道整備をきっかけとした農村社会開発を行う。

裨益者)

「土のう」による道路整備を実施した「土のう」による道路整備を実施したトランゾイア県、ブンゴマ県、キシイ県、ニャンダルア県、ウアシングィシュ県の農村部住民

事業費)

397,200 円

事業名)

ウガンダにおける海外青年協力隊への研修を通じた技術移転

事業実施国、地域)

ウガンダ共和国、ブタレジャ県ドホ灌漑地区、ムピジ県

事業期間、従事者数)

2008 年 4 月より 2009 年 3 月、2 名（木村、福林）

事業実施の経緯)

「土のう」による、住民自らが「道普請」の精神で農道整備をする手法をより多くの人々に効率よく伝え定着させるため、海外青年協力隊の活動を通じた技術移転が有効であると考えた。木村理事長が青年海外協力隊事務局と調整した結果、アフリカでの技術展開をと考えていたところ、ウガンダでの研修が実現した。

事業目的)

青年海外協力隊員が各自の任地で「土のう」による農道整備を実践し農道の通行性が改善されるとともに、より多くの住民へ技術移転を行う。また、隊員は約 2 年間で任地で過ごすので、道路整備時のみならず継続して維持管理についても指導することで定着化を図る。

裨益者)

「土のう」による道路整備活動を行う協力隊隊員、協力隊が道路整備を実施した村の住民

事業費)

100,000 円

事業名)

フィリピンにおける地方大学の普及活動を通じた技術移転

事業実施国、地域)

フィリピン共和国、イルコス・ノルテ州

事業期間、従事者数)

2008 年 4 月より 2009 年 3 月、2 名（木村、福林）

事業実施の経緯)

木村理事長と京都大学へ客員教授として赴任していたフィリピン、イルコス・ノルテ州、マリアノ・

マルコス州立大学の助教授との協議の中で計画、実行された。

事業目的)

現地州立大学スタッフへ技術移転後、大学の普及部門を通して周辺農村コミュニティの農村インフラ整備実施能力の向上を図る。

裨益者)

マリアノ・マルコス州立大学スタッフ、学生約 1,000 人

事業費)

942,339 円

事業名)

日本の道路整備の歴史（初期）とりまとめ業務

事業実施国、地域)

日本

事業期間、従事者数)

2008 年 9 月より 2009 年 3 月、2 名（木村、福林）

事業実施の経緯)

財団法人近畿建設協会より業務委託を受託

事業目的)

世界の開発途上国における道路整備は、交通の安全確保、人及び物流の活性化、物流コストの削減、観光振興に貢献すること等から、経済発展、社会の安定において、重要な役割を果たすことになる。

そこで、我が国の過去から現在に至るまでの道路整備の歴史をひもとく、近年の道路、橋梁のライフサイクルコストへの配慮や、計画的な施設更新に至るまで、効率的な道路整備、維持管理が行われるために、必要で有効な社会資本整備手法を策定し、社会資本整備に役立てようとするもので、今後の良質な社会基盤整備を推進していくために、特に、予防保全・点検手法を含めた適切な維持管理体制が確立され、道路維持管理コストの縮減が図られること等を目的とするものである。

同時に、社会資本整備をあくまで行政機関での活用・配布、教材本として学校等への配布、又、緊急な支援が叫ばれるアフリカ案件も視野に入れた国際貢献として JICA 研修生等への配布を行い、社会貢献を目的とし公益事業の一環として実施するものとする。

裨益者)

JICA 研修生等約 200 人

事業費)

500,000 円

農村部の貧困に苦しむ人々の

やる気と自信を引き出すために

「自分たちの道は自分たちで直せる」

という意識を広げたい

2008 年上半期活動概要



みちぶしんびと
NPO 法人 道普請人

2008 年度前期の主な活動

主な活動	2008					
	4	5	6	7	8	9
パプアニューギニア						
現地事務所スタッフ活動 (三宅)						
現地技術指導 (木村)						—
ケニア						
JICA専門家活動 (喜田、福林)						
現地NGO登録準備 (喜田、福林)						
学生現場見学受入 (木村、喜田、福林)						—
現地打合せ (木村、喜田、福林)	—					—
ウガンダ						
海外青年協力隊への技術指導 (福林)		—				
地方道路整備ワークショップで講演 (福林)		—				
フィリピン						
州立大学構内通学路整備計画						
国内						
広報活動 (木村、岸田)						
				▲ 総会		▲ 国際協力ステーション

主な広報活動

日程	内容
4月9日	JICA 地球ひろばで講演(木村)
5月28日	京都、探町画廊で講演(木村)
6月7日	国際開発学会春季大会で報告(木村)
7月10日	地盤工学会研究発表会で報告(木村)
8月2日	国際協カステーションで展示(木村)
8月4日	木村理事長へのインタビューが「東山三条ラジオカフェ」の番組でオンエア
8月14日	ケニアの全国紙、Daily Nation に「土のう」による道直しの活動が掲載
9月1日	日経関西コンシェルジュの「編集長インタビュー」(木村理事長へのインタビュー)がホームページ上で掲載
9月11日	土木学会学術講演会で報告(木村)
9月23日	ケニア、国際会議(土木分野)で報告(木村)

助成事業

事業名: 「土のう」を利用した住民参加型農村インフラ整備プロジェクト (パプアニューギニア)
 助成団体: 財団法人 国際協力システム
 事業期間: 2008年3月から2009年2月
 事業名: アフリカの農村が自ら豊かになるために
 ー日本の地域社会を支えてきた精神と農工技術を正しく地域住民へ移転することにより、人々の潜在的活力を引き出す手法の開発ー(ケニア)
 助成団体: 財団法人 トヨタ財団
 事業期間: 2008年11月から2009年10月

賞罰

平成19年度地盤工学会関西支部賞社会貢献賞
 業績名: 「土のう」による住民参加型未舗装道路整備手法の開発と貧困削減へのアプローチ手法の確立
 受賞者: 木村 亮、福林良典

活動報告

パプアニューギニア

- 1) 現地事務所常駐スタッフが、地域の村人らと道直しを実践しています。
- 2) CARE International(世界 70 カ国以上、事業規模 800 億円の世界有数の NGO)の活動現場にて「土のう」を使った道路整備を行いました。
(他 NGO と連携した新しい技術普及のパターンです。)



締固めについて指導している様子



トラクターで現場へ向かう様子

ケニア

- 1) **NGO 登録申請**(現在認証待ち)を行いました。(ケニアにて NGO 登録することで、現地での活動はもちろん、東アフリカへ活動範囲拡大の足がかりとします。)
- 2) **農業省**に当法人の活動内容について説明しました。
- 3) **4名の大学生が、道直しの現場を見学しました。**



ケニア農業省、技監 Dr. Songa へ活動内容を説明



村人らと一緒に汗を流す学生

ウガンダ

- 1) 昨年の研修後、自分たちでも道直しの活動を続けている海外青年協力隊隊員の任地を訪れ、技術指導を行いました。
(JICA ウガンダ事務所は、隊員活動の目玉として「土のう」による道直しを認識しています。)
- 2) 地方道路整備計画プロジェクト(JICA)で、道路管理者らを対象に「土のう」による道直し手法を紹介しました。



研修後に協力隊が道直しを実施した道路にて



「土のう」による道直しについて説明
(ワークショップにて)

国内活動

- 1) 活動内容について広く知っていただけるよう、**講演(8回)**や**展示(1回)**を行いました。また学識経験者らからのコメントを得るため**学会発表(4回)**も行いました。



国際協力ステーションの展示ブースの様子
(展示後のアンケート結果によると、当団体の活動内容に最も多くの方が関心を寄せていただきました。)

フィリピン

- 1) ルソン島北部のマリアノ・マルコス州立大学の協力者であるコーディネーターから、この夏の**台風時にも、「土のう」で構築された高さ 1 m の盛土構造の歩道はびくともしなかった**、と報告がありました。



乾季に施工時の様子
(2008年2月)



台風時の歩道の様子

施工延長(2008年9月末日現在)

	累計(m)	2008年度前期(m)
パプアニューギニア	496	90
ケニア	1,746	470
ウガンダ	1,615	110
フィリピン	109	0
合計	3,966	670

会員情報(2008年9月末日現在)

正会員個人	102人
正会員団体	13団体
賛助会員個人	107人
賛助会員団体	1団体

問合せ先

NPO 法人 道普請人
事務局: 福林良典
Tel & Fax : 075-706-5083
E-mail : info@michibushinbito.ecnet.jp
URL : <http://michibushinbito.ecnet.jp>

農村部の貧困に苦しむ人々の

やる気と自信を引き出すために

「自分たちの道は自分たちで直せる」

という意識を広げたい

2008年度下半期活動概要



みちぶしんびと
NPO 法人 道普請人

2008年度後期の主な活動

主な活動	2008			2009		
	10	11	12	1	2	3
パプアニューギニア						
現地事務所スタッフ活動 (三宅)						
現地技術指導 (福林)		—				
ケニア						
CORE(現地登録NGO) 活動 (喜田、本庄)						
JICA専門家活動 (喜田、本庄、福林)	—					
協力隊OGボランティア受入 (木村、喜田)					—	
ウガンダ						
海外青年協力隊による道直し活動						
フィリピン						
ため池堤防整備調査、施工 (木村、福林)				—	—	—
タンザニア						
土のう道直し活動紹介 (木村、福林)						—
国内						
広報活動 (木村、岸田)						
日本の道路整備の歴史まとめ (木村、福林)						

主な広報活動

日程	内容
10月24日	テレビ大阪「ボランティア21」に出演、活動紹介(木村)
12月7日	京都府 JICA 帰国専門家連絡会主催、 国際協力セミナー2008 で講演(木村)
3月10日	ILO(国際労働機関)、JICA 共同主催のワークショップ(於タンザニア) で「土のう」による道直し活動を紹介(木村、福林)
3月25日	建設分野における草の根の国際協力活動報告会 でフィリピンの活動報告(木村)
3月27日	アジア開発銀行(マニラ) で道普請人の活動紹介(木村)

助成等事業

- 事業名: 「土のう」を利用した住民参加型農村インフラ整備プロジェクト (パプアニューギニア)
助成団体: 財団法人 国際協力システム
事業期間: 2008年3月から2009年2月
- 事業名: アフリカの農村が自ら豊かになるために
—日本の地域社会を支えてきた精神と農工技術を正しく地域住民へ移転することにより、人々の潜在的活力を引き出す手法の開発—(ケニア)
助成団体: 財団法人 トヨタ財団
事業期間: 2008年11月から2009年10月
- 事業名: 日本の道路整備の歴史(初期)とりまとめ業務
発注機関: 社団法人 近畿建設協会 経営企画部
事業期間: 2008年9月から2009年3月
- 事業名: 平成20年度フィリピンにおける土のう利用型小規模インフラ整備普及調査業務 (フィリピン)
発注機関: 国土交通省総合政策局国際建設推進室
事業期間: 2008年12月から2009年3月

活動報告

パプアニューギニア

- 3) 当法人活動の知名度が上がり、地元の青年団やコミュニティからの協力要請の声がかかるようになりました。
- 4) ケレナガ村で坂部の整備工事を行いました。
- 5) CARE International(世界有数のNGO)に本団体活動が認められ、**アジア開発銀行出資のプロジェクト**を共同で実施しないかと提案を受けました。
(2009年5月現在、実施に向け準備、調整中)



道直しに関心のある青年団の要請を受けて研修を実施。その後、自分達で継続して道直しを行っています。



CAREの要請を受け道直しを実施した道路。Asaという村人が中心となり約1kmの道を整備しました。



約3年前に平坦部の施工を行ったケレナガ村で、**村人自ら、坂部の補修**を行おうとしました。そこで、セメント、ネットフェンスの材料を支給し、タイヤ通過場所の補強を行いました。

国内活動

- 1) パプアニューギニアでの道直しの様子を描いた切絵を絵葉書にし、広報活動に利用しました。
- 2) 日本の道路整備の歴史(古代から戦前まで)の取りまとめ業務を行いました(社団法人近畿建設協会からの業務委託)



京都大津間、逢坂山の坂部で牛車の通行性を確保するための工夫、車石(江戸時代)

ケニア

- 4) CORE(COMMUNITY ROAD EMPOWERMENT)の設立認証があり、ケニアでNGOとしての活動を開始しました。
- 5) **農業大臣**が土のうによる道直しを体験しました。
- 6) 協力隊OGをボランティアとして受け入れました。



ケニア農業省より選定された農民グループに対して道直しの研修を実施。



農業大臣(左端)に土のうによる道直しについて説明するCOREのケニア人スタッフ(前列右端)

フィリピン

- 1) ルソン島北部のマリアノ・マルコス州立大学、水産学科敷地内のため池堤防構築のための現地調査を行いました(国土交通省より受注)。
- 2) 学生が土のう歩道をマンガにしコンクールを行いました。
- 3) 土のうを利用し**堤防拡幅工事**を行いました。
- 4) **大学エンジニアが中心となり**、近くの河川護岸補修に土のうを利用することが検討されました。



学生が描いた、土のう歩道の絵

護岸施工のための現地測量の様子



堤防拡幅工事の様子

ウガンダ

- 1) 海外青年協力隊隊員(村落開発)による土のうによる道直しの活動を支援しました(メールでの技術指導、作業後の昼食代費用など)。

タンザニア

- 1) **ILO(国際労働機関)とJICA主催のワークショップ**で土のうによる道路整備手法について紹介しました。

ワークショップでのデモの様子



施工延長(2009年3月末日現在)

	累計(m)	2009年度後期(m)
パプアニューギニア	1,596	1,100
ケニア	1,876	130
ウガンダ	1,615	0
フィリピン	152	43
合計	5,239	670

会員情報(2009年3月末日現在)

正会員個人	99人
正会員団体	16団体
賛助会員個人	87人
賛助会員団体	1団体

問合せ先

NPO 法人 道普請人
事務局: 福林良典
Tel & Fax : 075-706-5083
E-mail : info@michibushinbito.ecnet.jp
URL : <http://michibushinbito.ecnet.jp>